

文壇球突物語

南部修太郎

青空文庫

球突の球の響

アントン・チエエホフの名戯曲「櫻の園」の第三幕目の舞台
 の左奥手には球突場がある心になつてゐる。舞台はいふまでも
 なく櫻の園の女主人ラアネフスカヤの邸宅の廣間で、時は春の
 夜、その地方の名家もやがて没落といふ悲しい運命の前にあ
 るのだが、そこにはロシヤのいはゆる「千八百八十年代の知
 階級」である處のラアネフスカヤを初め、老若の男女達の
 十余人が集まつて舞踏に興じてゐる。然し、さすがにどことなく
 哀愁にみちた空氣。間もなく邸宅にいよいよ買手がついたらと

いふ話はなしが傳つたはつて、ラアネフスカヤが悲かなしみに打うたれて卒倒そつとうする場面ばめんとなつてくるのであるがその間裏手あひぢらからカチン、カチインと絶た※きこず聞きこ※きこてくる球突たまつきの球たまの響ひびきはさういふ場面ばめんの空氣くうきと對たいおう應おうして、いかにも感じかんの美しい、何ともいへない舞台たい効果こうくわ果くわをなしてゐる。いつたい「櫻さくらの園その」には第一幕だいいまくの汽車きの音おと、第二幕だいいまくのギターの音色だいいまく、第四幕だいいまくの終はりの櫻さくらの木きを切り倒たふす斧そのの響ひびきなどと、場面ばめん々々の感じかんと相俟あひつて音響おんけうの効果こうくわが實じつに巧たくみに用もちゐられてゐるが、私わたしの狭せまい知識ちしきの範圍はんいでは、戯曲ぎぎよくに球突たまつきの球たまの響ひびきなどを用もちゐたのはひとりチエエホフあるのみのやうである。

里見、久保田、豊島氏の球突

これも私の讀んだだけの範圍でいへば、日本では里見※さん、
 久保田万太郎さん、豊島與志雄さんがいづれも短篇小説の中に球
 突場を題材にしてゐる。隴氣な記憶を辿れば、久保田さんの
 は私も二三度一緒に行つた事のある、淺草の十二階近所の球突場
 を背景にしたもので、そこに久保田さん獨特の義理人情の世
 界を扱つてあつたやうに思ふ。里見さんの確か修善寺あたり
 の球突場を題材にしたもので、そこに集まつてくる温泉
 客や町の常連の球突振そのものを例の鮮かな筆致で描いて
 あつたかと思ふ。豊島さんの今はもう忘れてしまつたが、とに
 かく球突場といふものはちよつと變つた人間的空氣の漂ふも

ので球たまの響ひびきの内には時とするめうと妙むなに胸底そこに沁しみみわたるやうな一種しゆの神祕感ひかんが感かんじられる。扱方あつかひによつては面白おもい小説せつも書けやうといふものである。

私自身の球突稽古

ところところで、私わたしが球突たまつきを初はじめたのは三田ぶんくわの文科ぶんくわの豫科生よくわだつた二十二十一の時で、秋あきに例れいのやうにからだを悪わるくして伊豆山いづの相模屋さがみやり旅館くわんに一月ほどを暮くらしたが、そこそこに球突場たまつきばがあつたので無聊ぶのまゝ運動うんどうがてら二十二十點てんといふ處ところあたりから習ならひ出したのが、病はじみつきの初はじめだつた。元來ぐわんわたし私は少年時代せうから寫真しやしんをやる、昆こん

虫採集むしさいしゅうをやる、草花くさなを作るつく將棋しょうぎをさすといふ風ふうで、少々せうせう趣味しゆみの
 多過おほすぎる方かたなのだが、そして、一時いちじそれぞれにかつと熱中ねつちゆうする方
 なのだが、球突たまつきも御多分ごたぶんに洩れもれず、少しすこ味あぢが分り出ですともう面
 白おしろくてたまらなくなつて來た。これは球突たまつきを少しすこやつた人の誰たれ
 しも經驗けいけんする事ことで、夜電氣よるでんきを消けして床とこにはひると暗闇くらやみの中に赤
 白しろの四つの球たまをのせた青い球たま台たいが浮うかんで來て、取り方とりかたを夢中むちゆう
 で空想くうそうしたりする。友達ともだちなんかと話はなしてゐると三人さんにんの位置いちが引ひ
 玉たまに考かんがへられたり、三つ並ならんだ茶碗ちやわんの姿すがたが面白おもしろい押玉おしの恰好かつこうに
 見み※たりする。そんな譯わけで伊豆山いづやまから歸かへつてくると、早速さつそく家の近き
 くに通とほひの球突場たまつきばを見つけて、さすがに學校まがはを全くエスすると
 いふほどではなかつたが、一時いちじは學校まがはの歸かへりに球突場たまつきばへ寄よつて

來ないと虫が納まらないやうな熱中振だつた。そして、少々病膏盲に入つたかなとやましくなると、なあに運動のためだといふ風に自分で自分にいひ譯してゐた。

氣分球の本性

結果は空しくなかつた。翌年は五十點になつた。その翌年は百點になつた。そして本科二三年の時分には百五十點にまでせり登つて、球突場の常連でも大關格ぐらゐになつたが、何としてもその折々の氣分に左右され勝ちな自分の本性は争へなかつた。球突語でいへばいはゆる氣分球で、日々の出來不出來がひ

どかつた。つまり調子がよければ持點を一氣に突き切る事もたびたびで、自然勝が多いが、それが逆になると、どうにも當たりが悪くて、負が重なつて苛々しい、憂鬱な氣分で球突場から歸つてくるやうな始末なのだ。従つてこはい時は相手からひどくこはがられるが、甘い時はまただらしがないほど甘くなつてしまふ。その癖負けず嫌ひだものだから、負けると口惜しさのあまりに意地になつてやるといふ風になる。そのために金も使へば、ずるぶん無駄にも時間を潰し勝ちだつた。

然し、その内に幾分倦きて來た。それに學校を出て、どうにか新進作家など、認められ出して、仕事が相當に忙しくなつて來たとなると、さうさう球突場通ひも出來なくなつた。そして、

一月に七八回が二三回になり、やがて一度行くか行かないかになると、練習不足で腕も鈍くなつて來た。百五十點がせいぜい百點といふ處にさがつた。興味がへつた。一年ぐらゐ全くキユウを握らないやうな事にもなつた。それでも去年一昨年あたりはまた少々興味が戻つて來て、一週間に一度ぐらゐの程度で和田英作畫伯や小宮豐隆先生と時々手合せの出来る近所の球突場へ通つてゐたが、昨年の初夏兩親の家から別居して、赤坂區新町に家を持ち、馴染のその球突場が遠くなるとともにまた殆どやめたやうな形になつた。そして時たま友達なんかとどこともない球突場で突いてはみるが、以前ほど面白くない、持點も百點は少々無理になつてまあ八十點といふ處になつてしまつた。

文壇ぶんだんで球突たまつきをやる人は前に書いた里見りみさん、久保田くぼさん、
 豊島とよしまさんの外ほかに加能作次郎かぬさくじろさん、中戸川吉二なかとがわきちじさん、加宮貴一かみやきいちさん
 などで、いづれも手合せあはをやつたが、みんな五十點てん以下だ。然ししか
 ただ一人久保田くぼさんが繊細せんさい緻密みつな作品さくひんを書く人でありながら
 球突たまつきではひどく不器用ぶきようなのを除のぞけばそれぞれに球突たまつきの中にも
 作品さくひんの感じかんが現あられてくるから面白い。豊島とよしまさんの至極しごく落ち着い
 た瞑想そう家的てきの突つき振り、里見りみさんは持點てんはたしか四十點てんで、まあ
 十兩れうつけ出しといつた格かくだが、時々じつ實じつに鋭じつい、實じつにこまかい球たまの
 取り方とを見せる。全まくさすがにといふ感じかんを覺おほたが、里見りみさん
 はちつと身みを入れたら百點てんぐらゐには今でもなれるやうな氣きがす
 る。球突たまつきは二十五歳さいを越こ※てはもう腕うでが堅かたくなつて上達たつは遅ち々

たるものなのだが……。

亡き岩野泡鳴氏の思ひ出

球たまの突つき振ふりに作さく品ひんの感かんじが現あられるといへば、實じつに私わたしにとつて
 忘わすれ難かたいのは亡なき岩い野の泡う鳴めいさんだつた。それも亡なくなられるほん
 の三さん四しヶ月前げつぜんに万まん世せ橋はしのミカドホテルの球たま突つ場ばで一せん戦せんを試こころみた
 のだつたが、持てん點てんも前まへに舉あげた人たち達たちよりも聊いさゝか群ぐんをぬいた六十てん點てん
 で、その突つき振ふりたるや快くわい活くわつ奔ほん放ほう、當あたるべからずといつた
 愉ゆ快くわいさだつた。始し終しゆう「はつはつはつは」といふ風ふうに笑わらつてゐら
 れるのが、フロックでも當あたると、詞とほ通とほり呵せう々せう大せう笑せうになる。その

少し前に芥川龍之介さんの宅で初めてお眼にかかつて想像とは
 まるで違つた實に氣持のいい人柄に感じ入つたものだつたが、球
 突の相手としてあんな氣持のいい印象を留めてゐる人は先づ
 珍しい。その後間もなく、ちやうど三浦三崎の宿屋に滞在中に
 訃音に接した時、私はまだあまりにまざまざしいその折の印象
 を思ひ出させられるだけに、哀悼の氣持も一そう痛切だつた。
 文壇の論陣今や輕佻亂雜卑小に流れて、飽までも所信に
 邁進する堂々たる論客なきを思ふ時、泡鳴さんのさうした追
 憶も私には深い懐しさである。

名手小宮豊隆氏

●●●
小宮先生は今は文壇ぶんだんよりも學界がくがいの方に專念せんねんされるやうになつてしまはれたが、私のわたくし知る限りかぎりの文藝ぶんげいの道みちに携たづはる人達たちの内うちでは一番ばんの、百五十點てんといふ球突たまつきの名手なまてである。いふまでもなく先生わたくしは私の三田文ぶんくわ科生時代だいいからの先生せんせいであるが、球突たまつきは始終しじう喧嘩けんくわ相手あひで、銀座裏ぎんざうらの日勝亭せうていで勝負せうふを争あらそつて、その成績せいせきで風月堂ふうげつどうの洋食ようしょくのおごりつこをしたなどもしばしばである。尤ももつと、負けても實じつはおごつて頂くいたゞ方が多おほかつたがどういふのかこの師弟していの勝負せうふはとくだれ勝ちかちで、仕舞しまひには兩方共憂れうともゆう鬱ふさになつて、むつつりしたこはい顔かほつきで變へんに意地いぢにかかつたしあひ仕合あひになつてしまふ。また時とすると、腕うでよりも口の仕合しあひになつ

てしまふ。然し、ここにも先生の風格は現れて、その突き振りたるや悠々重厚の感じがある。そして、一面には繊細巧妙の赴きを見る。いはば私にとつては實に好々敵手だつたのだが、先生今や東北青葉城下に去つて久しく相見ゆる機を得ない。時々思ひ出すと、私には脾肉の歎に堪へないものがあるのである。

球突に淫する和田英作畫伯

和田英作畫伯とは一昨年の春頃近所の球突場で初めて御面識を得た。そして、一時はやつぱり近所に住んでをられた小宮先生を交へて、三巴の合戦を交へたものだつた。和田先生は

持^{てん}點八十點だが、五十前後の年輩^{はい}の方には珍^{めづら}しい奇麗^{きれい}な、こまかな突^つき振^ふりをされる。しかも、やや淫^{いん}するといへるほどの熱心家^{ねつしんか}で、連夜^{れんや}殆^{とん}ど出席^{せき}を欠^かかされた事がなかつた。無論^{むろん}、私^{わたし}には望^{のぞ}みの好敵手^{こうてき}だつた。大正十三年から十四年への晩^{ばん}を除夜^{じよや}の鐘を聞^ききながら、先生と勝負^{せうふ}を争^あつた事もある。そして、勝負^{せうふ}をしながら畫談^{ぐわだん}を聞^きかせて頂^{いた}たりするの、私^{わたし}には一つの樂^{たの}みだつた。然^{しか}し、赤阪^{さか}に移^{うつ}り住^まんでからは、全^まく先生とも會^{くわい}戰^{せん}の機^きを得^えない。尤^もつと、その球突場^{たまつきば}が廢業^{はいげう}したせるもあるが、先生もこの頃^{ころ}は明治大帝繪畫館^{めいじていぐわいぐわくわん}の壁畫^{へきぐわ}の御揮毫^{ごぎこう}にお忙しくもあるらしい。

心よき誘惑

とにかく球突たまつきといふものは少し味あぢが分つてくると、實じつにデリケエトな興味けうみのある勝負事せうふだ。たとへば秋あきの温泉場おんせんばの静しづかな夜更よげなどに、好このもしい相手あひと勝負せうふに熱中ねつしながら、相當腕そうたうでが出来なければ冴と※ない處ところのあの球たまの響ひびきを聞きく氣持きはちよつと何なともいへない。下町したまちなどの球突場たまつきばによくあるいはゆる球突場氣分たまつきばきなるものは、私わたしには甚はなはだ有難ありがたくないものだが、さういふ純じゆん粹せいな境地けうちになると、ちよつと淫わしても悪わるくない誘惑物ゆうわくぶつだ。震しん災さい後の東京けうには實際じつさい驚おどろくほど球突場たまつきばがふ※た。然しかし、球たま台たい、球たま、キユウ、チヨウク、お客きやくの人柄から、建物たてものの感かんじ、周圍しうい

の状態ぜうたい、經營者けいえいしやの經營振けいえいふり——さうした條件ぜうけんがいい氣持きに
 揃そろふのは實じつに困難こんなんな事なので、さてしつくりと勝負せうふを樂たのみたく
 なるやうなのはめつたにない。とにかく文壇ぶんだんでも若い作家わか達のさくの
あいだ間にあいだだいぶはやり出したといふ。關西くわんでは令嬢れいぜう夫人ふのあいだ間に大流りう
 行いだといふ。球突たまつきの趣味しゆみは今の處ところひろまつて行くばかりらしい。

(一五、二、一六)

青空文庫情報

底本：「サンデー毎日」大阪毎日新聞社

1926（大正15）年2月28日発行

初出：「サンデー毎日」大阪毎日新聞社

1926（大正15）年2月28日発行

※「里見、久保田、豊島氏の球突」は1字下げ2行取り、「名手小宮豊隆氏」は4字下げ、「心よき誘惑」は2字下げとばらつき
の見られる見出しの処理は、3字下げに統一しました。

※見出しは底本では太字のゴシック体です。見出し内「豊」と本文中「豊」の混在は、底本通りです。

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ケ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。

※「変体仮名え」は、「江」をくずした形です。

※「変体仮名え」の外字注記中の数字は、「ページ・段数・行数」です。

入力：小林徹

校正：大久保ゆう

2016年3月4日作成

2016年6月23日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.AOZORA.GR.JP/) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

文壇球突物語

南部修太郎

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>